

# 平成27年度 練馬区立豊玉小学校 学校評価報告書

練馬区立豊玉小学校  
校長 中村 豊 印

## 1 自己評価結果

(1) 根拠となる資料 教員・保護者・児童の意識調査、高学年の学力調査結果、体力調査結果、保護者からの自由意見、評議員の授業参観の意見等、から1年間の教育活動を自己評価する。

### (2) 概要

- 「わからない」と回答する保護者が設問によって大きく減少した。具体的な取組が見えるようにしたことは評価されている。しかし、家庭と協力して解決する課題・視点もあるので更に学校の取組を情報発信していく。また、地域の教育力の活用についても、公開していくことが求められている。
- 挨拶や協力する態度に関しては、昨年度よりも取組を強化した。しかし、大きな伸びに至らなかった。今後も家庭と協力して行くべきである。
- 学力調査の「平均」は概ね良好だが、個人差や基礎基本を更に定着させるための指導に取り組むことを継続する。
- 体力調査では、走力の課題は一昨年度に比べ解決しつつある。しかし個人差、学年差、種目差は顕著である。握力、ボール投げ、柔軟性に特化した指導も必要になる。
- 児童対象質問「悩みや困っていることを先生などに相談していますか」のポイントが他に比べて低い。いじめ問題への取組、相談体制を改善すると共に、日常の信頼関係を更に高める必要がある。

### 【学校評価Ⅰ】(教育目標の具現化を児童の実態から考える)

	具体化の重点具体目標 (評価の観点)	評 定 (昨年度との比較)	成果・課題等、今後の方針
考 え る 子	1. 人の話をよく聞き、自分の考えを発表できる子になったか	2.6 (2.7)	○友達との「交流」場面、意見交換では、改善している。 ○心情や根拠を説明できる力を伸ばしたい。
	2. 基礎基本の学力が定着している子になったか	2.7 (2.7)	○継続・計画的にプリント・ドリル等の活用を図る。 ○個人差への対応、家庭(学習)との連携、低学年も含め放課後学習の時間を検討する。
ね ば り 強 い 子	3. 体力のある子になったか	2.4 (2.4)	○「姿勢」を改善する必要がある。 ○外遊びの質・量・幅を更に検討する必要がある。 ○体育科の授業の再検討を行う。
	4. 集中力があり最後までやりぬく子になったか	2.4 (2.6)	○個人差がある。個に適した支援や、家庭との連携が必要な場合もある。
心 ゆ た か な 子	5. みんなと仲よく協力する子になったか	3.0 (2.9)	○仲良くすることは、全体的にできている。褒める・認める態度の育成のために教師の指導・支援が必要となる。
	6. 挨拶ができるルールを守る子になったか	2.3 (2.6)	○繰り返し指導が必要である。 ○個人差がある。学校全体としての取組が今後も必要。 ○家庭との連携が必要である。

(2) 経営方針の具現化から考える (教職員評価結果と保護者評価結果の両面から集計)

※赤字は、保護者の「わからない」の回答者割合

【学校評価Ⅱ】(経営方針をもとにして考える)

		具体目標(評価の観点) ●学校の評価 ☆保護者の評価	評 定 (昨年度との比較)	成果・課題等、今後の方針
地域を大開切 か に れ し た 外 学 に 校	1	●学校公開等を通して学校の様子を伝えたか	3.3 (3.0)	○学校公開の更なるPRと内容の工夫を行う。 ○ホームページ、学級だより等の充実を継続・実施していく。
		☆学校公開等を通して学校の様子が伝えられている	3.7 0%	
	2	●地域の人材活用、地域の教材化、地域行事への参加等はできたか	3.0 (2.9)	○今後も地域行事等への参加を啓発する必要がある。 ○日本文化、読み聞かせ、昔遊び等、今後も地域の協力を頂き、それを広報する。 ○更に多種のボランティアの募集をする。 ※「わからない」7%増加↑
		☆地域の教育力を生かした教育活動が行われているか	3.2 17%	
	3	●保護者会等を通して保護者の意識を受け止めたか ●家庭や関係機関との連携はとれていたか	3.0 (3.0)	○支援の必要な児童に対して、組織的に対応していく。 ○対応している内容を保護者に伝えていく。個別対応を丁寧に行う。 ○必要に応じて関係機関と連携する。 ※「わからない」2%減少↓
		☆保護者会等を通し保護者の意見を受け止め適切に対応しているか	3.2 10%	
し教内職に員 開が か 互 れ い た を 学 信 校 頼	4	●教育目標を共有化し、組織を生かした活動ができたか	3.0 (3.0)	○専科教員と担任との連携をより図り、指導内容・方法を充実させていく。 ○TT、講師等と更に連携を取り指導する。 ○交換授業(いわゆる学年内専科)の実施について検討する。
	5	●合同授業、TT指導、専科教諭との協力はできたか	3.1 (3.0)	
	6	●他の職種との相互尊重と連携は図られたか	2.9 (3.0)	
学 ぶ 素 晴 ら し さ を 実 感 で き る 学 校	7	●道徳の時間の工夫を行い、心の教育の充実はできたか	2.9 (2.9)	○工夫を凝らして提案授業を行えた。 ○校内研究を生かし、指導内容を充実させる。 ○新しい道徳指導のあり方の研究・検討。 ※「わからない」12%変わらず
		☆道徳の時間等を通して心の教育が十分に行われているか	3.3 12%	
	8	●教師としての力量の向上は図れたか	3.1 (2.8)	○今後も、日常の授業を公開し合い、研修を深めていく。自主研修を充実させる。 ○内外に開いて研修を行う。 ○個別指導や日々の指導を充実させる。 ○基礎の定着には繰り返しの指導が必要。家庭との連携が必要。 ※「わからない」3%減少↓
	9	●教科の基礎基本の確実な定着を図ることができたか	2.9 (2.8)	
		☆基礎的基本的な学力の向上が図られているか	3.3 0.01%	
10	●問題解決学習、体験学習等を意識して学習を行っているか	3.3 (2.9)	○問題解決学習をする場面が多く設定していく。指導技術・指導意識は高まっている。 ○外部・専門家の指導を積極的に導入する。	
自	11	●いじめ、問題行動等を予防できたか	3.1 (3.1)	○日常の様子を細やかに見取ること、児童との面談等を通して児童理解に努める。

由と規律のある学校	☆いじめや問題行動に対して適切な指導が行われているか	3.1 3.1%	○未然防止・即解決の方針で取り組む。 ○職員間の情報共有・協働対応の継続。 ※「わからない」4%増加↑
	●児童のよさを認め励ます指導の実践はできたか	3.2 (3.1)	○学校生活全体を通して、一人一人を認め、自信と意欲につながるようにしていく。
	☆子供のよさを認め励ます指導が十分に行われているか	3.3 0.04%	「褒める」言葉かけの継続。広報の必要性 ※「わからない」6%減少↓
	13 ●教師の指示の通る学級づくりはできたか	3.1 (2.8)	○学級ルールの確立、児童理解を深めること、教師の指示の仕方（技術）の向上
14 ●自浄作用のある学級集団づくりはできたか	3.0 (2.6)	○教師の適切な指導のもと継続課題	
特色ある教育活動を推進する学校	15 ●縦割り生活班を中心とした異学年の交流は実践できたか	3.4 (3.3)	○日常的に縦割班活動を更に充実させる。 ○高学年のリーダーシップ育成に効果的である。マンネリ化しないようにする。
	☆縦割り生活班等を通して、異学年の交流が行われているか	3.6 0%	※わからない4%減少↓
	16 ●日本の伝統文化に親しむ活動ができたか	2.8 (2.8)	○講師の先生方の支援を今後もお願いする。
	17 ●言葉を大切にされた指導はできたか	3.0 (2.9)	○日常の言語環境を整える。児童間での言葉遣いへの意識付け、家庭との連携が重要。
	☆挨拶や言葉遣い等、言葉を大切にされた教育が行われているか	3.0 1.2%	※「わからない」変化無し
	18 ●15分間の朝学習は確実にできたか	2.9 (2.9)	○指導計画にそった指導を今後も全校的に取り組む。
	19 ●健康な身体づくりはできたか	2.8 (2.9)	○保護者への健康な身体づくりの重要性を啓発する。
	☆健康な身体づくりに取り組んでいるか	3.3 0.04%	○体育授業、豊玉独自の運動の工夫を行う。 ○遊びの質・量を向上させる。 ※わからない3%減少↓
	20 ●地域とのかかわりはできたか	2.8 (2.9)	○今後も積極的に地域行事に参加させたり、地域人材を活用したりする。
	21 ●授業改善をめざした研究授業はできたか	3.0 (2.9)	○校内研究では分科会を中心によりよい授業となるように今後も討議できるようにしていく。
22 ☆子供の安全確保のための対策がとられているか	3.5 0.03%	○安全教育を推進する。 ○施設・設備の点検・改善に努める。 ○不要物品の廃棄 ※わからない2%減少↓	

## 2 児童の評価 (Aとても思う Bだいたい思う Cあまり思わない D思わない)

学校生活アンケートの結果 (児童 3年生～6年生) 数字は%

1. 学校に来ることが楽しいですか。

A	B	C	D
56	35	6	3
59	34	4	3

3.5 (3.5) ポイント

2. めあてや目標をもって、学習したり生活したりしていますか。

A	B	C	D
35	55	8	2
35	57	6	2

3. 2 (3. 2)

3. 進んで読書をしていますか。

A	B	C	D
42	42	9	7
44	36	15	5

3. 2 (3. 2)

4. 進んで学習に取り組んでいますか。

A	B	C	D
45	48	5	2
41	51	6	2

3. 4 (3. 3)

5. 勉強が分からないとき、先生に質問したりや友達に聞いたりしていますか。

A	B	C	D
51	41	4	4
52	36	5	7

3. 4 (3. 3)

6. 悩みや困っていることを先生などに相談していますか。

A	B	C	D
37	41	7	15
35	38	9	18

3. 0 (2. 9)

7. 進んで運動したり外で遊んだりしていますか。

A	B	C	D
68	25	6	1
48	39	9	4

3. 6 (3. 3)

8. 進んであいさつをし、正しいことばづかいをしていますか。

A	B	C	D
38	53	7	2
44	46	8	1

3. 3 (3. 3)

9. 友達のことを思いやり、進んで親切にしていますか。

A	B	C	D
51	46	2	1
50	45	3	1

3. 5 (3. 4)

10. たてわり班での遊びや活動に協力し、楽しくできていますか。

A	B	C	D
63	33	3	1
68	27	4	1

3. 6 (3. 6)

11. 学校のきまりを守り、安全に気を付けて行動していますか。

A	B	C	D
53	43	3	1
51	42	5	2

3. 5 (3. 4)

12. 友達と協力し合って楽しい学級をつくろうとしていますか。

A	B	C	D
58	37	2	3
61	34	3	1

3. 5 (3. 5)

### 3 学校関係者評価

平成28年2月13日、地域・学校評議員、保護者の代表を招き、「第2回 学校関係者評価・地域教育懇談会」を行い、平成27年度の学校評価と次年度の教育計画についての報告と協議・意見交換を行った。

始めに校長から、各データ説明とそれに基づいた来年度の具体的な方針を説明した。

#### <主な指摘内容>

- 「あいさつ」等、家庭で育てることが必要ではないか。朝はどうしても機嫌が悪いようである。夕方は普通にできていると感じている。
- 「あいさつ」は、ここまで指導して頂いているが焦らないで続けて欲しい。中学校に行くことができるようになることも多い。
- 学校で育てて頂いている意識が保護者には低いのではないか。保護者の気持ちと学校の考えのボタンの掛け違いをなくしていくことも必要である。
- 学校を支援するためにも、「サークル」を広げていく。学校、保護者、地域の連携を広げていかなければならない。
- 健康第一に考え、休み時間の延長と遊びの幅の拡大は大変評価できる。
- 一輪車、竹馬など、遊び道具が自由に使えることは大変良い。
- 140周年を機会に、著名な卒業生・ボランティアを募集してみてはどうか。
- 体力向上策として、父親や地域の方の協力で対応できないか。ボランティアを募集してはどうか。
- 「わからない」という声は、保護者が見ようとししないのだから、関心を持てるようにする。ホームページの更新をこれかも続けて欲しい。すばらしい。
- ホームページが充実した1年であった。更に充実させるためにPTAから直接掲載できるシステムを構築したらどうか。
- 父親の参観が多くて良い。学校公開は、通常の授業とイベント的な内容を組み合わせて今後も続けて欲しい。

### 4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

#### 1－(2)の「成果・課題、今後の方針から」

##### 1 「個人差」に応じた指導を充実させるために

- (1) 算数科加配教員を活用し、3年生から習熟度別クラス編成を行い、授業を展開する。なお、低学年においても、学習支援講師を加配教員と捉え、学年を解体したり、学級数を増やしたりして算数科の授業のあり方を検討する。

体力向上・体育科の授業改善に取り組む。特に体力課題に対応した取組を具体化する。

- (2) 放課後における個別指導が展開できる時間設定を低学年においても行う。
- (3) 新たな3学期制に伴い、指導と評価を充実させ、家庭との連携を図るため個人面談等を充実させる。

##### 2 運動遊びを充実させるために

- (1) 「中休み」を5分間延長は継続する。また、遊び道具を充実・拡大させるとともに、この時間は係活動や委員会活動を極力行わないようにして全校遊びを行う。

また、休み時間における体育館遊びにも積極的に取り組む。

- (2) 屋上の活用を継続していく。

##### 3 挨拶・マナー等、生活態度を定着させるために

- (1) 児童会や委員会活動を活用し、「挨拶運動」を継続・実施する。また、中学校との挨拶運

動も継続して行う。

- (2) 公共施設や公園などの適切な遊び方、金銭の適切な扱い方など、家庭と協力した指導を行う。

#### 4 いじめ等、生活指導・相談活動の充実

- (1) 現在「相談しやすい」体制づくりを継続する。児童理解を深め「褒める」ことにより、児童同士・教師と児童の信頼関係を高める。定期的な個人面接を行う。
- (2) いじめ防止、生活指導等の取組については、個別指導はもとより、全体指導についても積極的に広報行うとともに、家庭との連携を密にする。

#### 5 教育活動を広報する

- (1) 今後も「教育課程説明会」は、年度始めの保護者会で行う。27年度はこの取組で参加者が10倍以上増加した。教育活動・啓発活動としての「学校説明会」を実施する。
- (2) 学校ホームページを1日1回は更新し、日常の教育活動を発信する。日常の様子を様々な視点から伝えるために担任、教科担任がホームページ作成に取り組む。
- (3) 第二土曜日は「公開」である意識が保護者に浸透させることができた。さらに、日常に於いても学校は公開していることも広報していく。
- (4) 学校公開では、イベント的な内容、保護者の参加型内容と日常の授業が参観できるよう今後も構成していく。
- (4) 保護者と「ざっくばらんな関係作り」を行うために、連絡帳<電話連絡<面談（訪問）のスタンスを教職員が持つ。  
また、140周年記念行事を契機に、保護者・地域のボランティア活動に対して、教職員もより理解し、協働する意識をもつ。
- (5) これまでも、様々なボランティアの皆様が教育活動を支援していただいていた。来年度は、更にスポーツや音楽等、広く地域の教育力を募り、教育効果を高めていく。
- (6) PTA活動が「ホームページ作成」に参画できるシステムを構築する。
- (7) 140周年行事までの児童の取組、プロセスを広報していく。

#### 6 小中一貫教育について

体育科の授業改善・指導について焦点を当てて取り組んでいく。その中で、体力向上、オリンピック・パラリンピック教育からの視点も加え、系統的な指導の在り方について研究していく。

挨拶運動、体験授業、乗り入れ授業、作品交流、リトルティーチャーについてはこれまで同様実施していく。